様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月 １９ 日現在

機関番号：２４３０２
研究種目：基盤研究(B)（一般）
研究期間：2018～2021
課題番号：１８Ｈ００７４１

研究課題名（和文）聖地・霊場の成立についての分野横断的比較研究

研究課題名（英文）Multidisciplinary studies on the formation of holy place and Buddhism sacred place.

研究代表者
菱田　哲郎（hishida, tetsuo）

京都府立大学・文学部・教授

研究者番号：２０１８３５７７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　13,200,000円

研究成果の概要（和文）：神社に代表される聖地の成立と山林寺院に代表される霊場の成立について、時代を超えた普遍性を探る検討をおこなってきた。その中で、とりわけ水に対する意識が強いことが明らかになり、浄水を得る泉がいずれも重要な役割を果たしていることが判明した。このことは、朝鮮半島の寺院においても共通するほか、日本列島内の潜伏キリシタンに関係する聖地においても同様であった。宗教的な儀礼に浄水が用いられるという点からは当然とも言えるが、その確保のあり方が聖地と霊場の立地に影響していることはうたがいない。このほか、参詣ルートの重要性、象徴的な記念物の樹立など、聖地、霊場の特徴について明らかにすることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
これまで個別には聖地や霊場の特徴について研究は進められてきたが、それらを通しての共通性の把握ができたことが本研究の大きな成果である。個々で明らかになってきた聖地霊場の立地の特性、またその水場との関係などについては、今後それぞれの聖地霊場を把握するために問われることになろう。また、山中の遺跡として立地している聖地や霊場については、発見そのものが困難である場合が多い。本研究で明らかになった立地の特性は、未発見の聖地霊場の探索にとっても重要な役割を果たすことが期待できる。そして、先進地域の事例に着目したことから、その成果を広く列島全体に普及させることを促進することになる。

研究成果の概要（英文）：We have been studying the establishment of sacred sites represented by shrines and the establishment of sacred places represented by mountain temples in order to make clear the universality that transcends time. Among them, it became clear that the awareness of water was particularly strong, and it was found that the springs that obtain purified water play an important role in each. This was also the case in temples on the Korean Peninsula, as well as in sacred places related to hidden Christians in Japan. It is natural from the point of view that purified water is used for religious ceremonies, but it is undeniable that the means to secure the water affects the location of sacred Shinto sites and sacred Buddhism temples. In addition, we were able to clarify the characteristics of sacred sites such as the importance of pilgrimage routes and the establishment of symbolic monuments.

研究分野：考古学

キーワード：聖地　霊場　神社の成立　祭祀遺跡　山林寺院　浄水　水場

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

これまでの祭祀遺跡に対する研究では、祭祀の場が、名山、大川、巨石、泉などの自然崇拝と深い関係があることが明らかになっており、また神社の立地の研究では、これらの自然崇拝の対象に加えて、水源などの灌漑起点がその立地に影響を及ぼしていることが知られている。そして、伊勢神宮や出雲大社の境内から４世紀ないし５世紀の祭祀遺物が発見され、神社の淵源と古墳時代の祭場とが関連を持つことが指摘されており、その間の接続を解明することが課題となっている。神社の成立史では、常設神殿の成立を８世紀に求める意見が優勢ではあるけれども、それ以前の姿を遺構の上で明らかにするには、神社の要件を定めることが先決となり、議論が分かれているのが現状である。このような現状をふまえ、まずは、神社の要件を一度棚上げしたうえで、神社につながる聖地がどのように成立してくるのか、という問いを古墳時代から奈良時代までの祭場の形成過程を検討しつつ解明することが先決であると考える。そのためには、考古学による祭祀遺跡の検討を下敷きに、建築史学が担ってきた神社建築に対する検討、さらに文献にあらわれる祭場や神社をともに扱うことにより、より総合的で一貫した聖地研究が可能になると考えた。

一方で、仏教寺院が建立されはじめてまもなく、山林にも寺院の立地が及び、山林寺院が僧侶の修行の場として成立してくる。この山林寺院の立地もまた、山中の浄地を求めるという性格上、霊場を形成し、それは先に挙げた祭祀遺跡や神社の立地と重なることが多いという特徴をもつ。日本列島における神仏習合は８世紀半ばからすでに始まることが指摘されているが、その背景としてこのような山間の聖地・霊場での神仏の併存が考えられる。したがって、神社の起源につながる聖地とともに、山林寺院に関わる霊場がどのように成立するのかという問いも、同じ土俵の上で、分野を横断して検討することが重要である。

このような聖地・霊場の成立過程は、日本列島の独自な問題ではなく、他の地域や他の宗教にも敷衍可能な課題である。したがって、聖地・霊場はどのような場所にいかにして成立するのかという問いに置きなおすと、世界各地について扱いうる大きなテーマになる。ただし、研究の実効性を担保するためには、まずは集中的に検討が可能な日本列島の問題を中心に扱い、その上で日本列島とよく似た宗教的環境をもつ東アジアを軸に、比較検討をおこなうことが重要であり、他宗教との関わりについては、日本列島におけるキリシタン聖地のあり方もまた比較対象とすることが必要である。

２．研究の目的

聖地・霊場がいかにして成立するのかという問いに対して、これまでの研究をふまえながら、関連分野の協業のもとに考察することを目的とする。そのため、以下の３つの目的を設定し、それぞれの検討成果をふまえたうえで、総合的な考察をおこなえるようにしたい。

①　神社に代表される聖地の立地特性と景観上の特徴

神社の成立につながる祭祀遺跡について集成し、その立地特性や景観上の特徴について検討することを最初の目的とする。同時に、式内社に代表される古代の神社について、その論社などを吟味した上で、考古資料にもとづく変遷、神階授与などの文献記録による消長、神社建築の遺構からの検討をおこない、その成果を総合する作業を通して、具体的に成立過程を解明する。神社に代表される立地の特性について、山、川、泉、灌漑起点といった要素との相関を明らかにし、検討をおこなう。

②　山林寺院などの霊場についての立地特性と景観上の特徴

８世紀に成立する山林寺院について、集成的に検討をおこない、①と同様の視点からその立地特性を解明することを目的とする。山頂、山腹、谷、泉といった立地上の要素との相関を明らかにし、検討をおこなう。①との関わりから、神仏習合の背景を解明することも目的の一つである。

③　聖地・霊場の立地特性の普遍性のための比較研究

神社と寺院を中心とした聖地・霊場の検討に加えて、他の宗教や地域の状況を比較し、より普遍的な聖地研究をめざそうとするのが、三番目の目的である。国内では、１６世紀から１７世紀にかけてのキリシタンの聖地について検討をおこない、①②の聖地、霊場との関わりを考察する。次に、同様の宗教環境にある朝鮮半島と中国について、寺院や廟の立地と山、川、泉などとの関係を調査し、その共通性や相違点を明らかにしていく。

以上の３つの課題は独立しておこなうのではなく、常に同じ視点から比較検討をおこない、宗教的感興の励起といった普遍的な人の意識の問題に迫ろうとする点で独自な研究法と言える。また、従来、祭祀遺跡、神社成立史、神社建築というように、考古学、歴史学、建築史学がそれぞれ別個に検討をおこなっていた領域について、分野を横断する研究の枠組みを作る点が本研究の最大の独自性であり、研究組織として、考古学（菱田）、文献史学（吉川）、建築史（山岸、岸）に歴史地理・景観（上杉）を加えて、聖地・霊場の立地を総合的に把握する布陣とし、

比較のためにキリシタン（東）、朝鮮半島（井上）、中国（向井）を配している。このような陣容で聖地・霊場の成立を比較研究するという試みはこれまでにほとんどなかったと言ってよく、宗教学単体の聖地研究とは一線を画するものになる。この研究によって得られる聖地・霊場の成立の普遍的な側面は、人類史そのものを考察する一つの材料となる。

３．研究の方法

上述した、３つの目的について、具体的な方法を記す。

①　神社に代表される聖地の立地特性と景観上の特徴に対する検討

まず、神社から古墳時代の祭祀遺物が出土している事例について、検討材料の収集をおこなった。そして、古墳時代から奈良時代にいたる変遷を明らかな事例を分析することから祭祀遺跡から神社への変遷を推測することを試みた。そして、祭祀遺跡から神社の成立にいたる過程について、まず祭祀遺跡と神社の継承関係が明瞭な丹後地域をとりあげ、大宮売神社境内遺跡や難波野遺跡、千歳下遺跡など、神社と祭祀遺跡の立地と景観上の位置について検討し、各地の神社立地の特性を考える基礎とした。

この立地特性について、各地の式内社について、分類、検討をおこなう。とくに、灌漑の起点や泉に位置する神社について、その灌漑範囲の開発時期を遺跡から割り出すことにより、神社における祭祀の開始時期を推測する方法をとる。また、島根県三田谷遺跡のように、神社として場所が継承されないものの、泉の祭祀にともなって神社と推測される遺構が存在する例もある。そのような事例を集成し、どのような建物が初期の神社として認定しうるのかという点について、資料に基づいた検討を考古学と建築史学の協業によりおこなった。

②　山林寺院などの霊場についての立地特性と景観上の特徴に対する検討

山林寺院については、およその集成がなされているが、改めて立地に着目した分類をおこなった。山頂、山腹、谷といった地形に加えて、泉の有無などを問題とする。具体的には、国分寺周辺の山林修行の場として開かれた寺院は、８世紀に遡る霊場である可能性が高いので、その集成的な検討をおこなった。また、大阪府忍頂寺のように、同じ山に山頂、中腹、山麓といった場所に寺院が展開する事例もあるので、そのような複数の霊場についても踏査をおこない、霊場の成立過程やその後の消長の中で、意識の変化を明らかにすることとした。そのうえで、①で扱った神社などの聖地の場所と比較し、その共通性を明らかにし、また、若狭神宮寺をはじめ初期の神仏習合の事例についても文献記録と遺跡との双方を検討し、聖地と霊場の共通性について検討をおこなった。①と②の検討に際しては、畿内地域のほか、出雲地域、若狭地域、讃岐・伊予地域など、現地に研究チーム全体で赴いて、現地の研究者とともに実際の景観を確認する作業を実施した。

③　聖地・霊場の立地特性に対する比較研究

日本列島におけるキリシタンの聖地についても、大阪府北摂や長崎県天草の事例をもとに、立地の特性を検討する。ここでも、聖水の獲得などに注目する。朝鮮半島と中国の仏教寺院や廟について、日本列島の事例と同様の観点から比較検討をおこない、聖地・霊場としての共通性を探ることとした。そのため、韓国の慶尚北道を中心に巡見をおこなった。その際に、①および②の成果を検討し、聖地・霊場の成立について、内外の共通性を探ることにした。

以上の検討については、資料の収集的検討に加えて、チーム全体での実地の巡見調査をおこなうが、日程が合わないメンバーは別途に調査をおこない、それらの成果を定期的に開く研究会で交換できるようにし、異なる学問分野の研究成果を共有するように努めた。また、最終年度には、成果をとりまとめ報告書を刊行した。

４．研究成果

年度ごとに成果を述べる。

2018 年度

①神社に代表される聖地の立地特性と景観上の特徴に対する検討では、丹後地域を中心に山陰道諸国の式内社の情報を集め、その立地についての検討をおこなった。大宮売神社についての研究も継続しておこない、酒米の貢進と祭神との関係など、文献研究も参照して理解を深めた。また、兵庫県神崎郡神河町にある春日神社について、水源と龍神信仰がきれいに対応する神社として注目し、考古学、文献史学、建築史学の各分野を横断して実地に検討をおこなった。

②山林寺院などの霊場についての立地特性と景観上の特徴に対する検討では、①で扱った春日神社の神宮寺があり、またその近くの山林寺院を踏査し、新たに平安時代の土器を採集するなどして、古代における霊場の開拓過程を明らかにすることができた。この地域には「播磨犬寺」が 7 世紀に建立され、その後、山寺に移ったことが『峯相記』などの史料からうかがえるが、そうした伝承を実地に確認できたことは重視できる。このような平地の寺院との関係をもちながら山林の霊場が開拓される状況について、近畿地方の事例を中心に検討をおこなった。

③聖地・霊場の立地特性に対する比較研究では、キリシタンの霊地である大阪府茨木市忍頂寺について、竜王山の周辺に点在する聖地霊場の踏査をおこなった。これについては、他の科

研によるこれまでの研究成果もまとめて、報告書を刊行した。また、中国の霊場についても集成を開始し、文献記録を中心に泉に関する多くの霊場の情報を得ることができた。
　このほか、巡見として四国北部の水に関わる聖地を実地に検討し、水を得ることの容易さ困難さが、その信仰にも影響を及ぼすことを確認した。また、近世の神社の立地の一例として京都市東山区の三嶋神社に関する研究会を実施した。

2019 年度
　①神社に代表される聖地の立地特性と景観上の特徴に対する検討では、北陸道諸国の式内社の情報を集め、その立地についての検討をおこなった。とくに福井県美浜町の弥美神社について、考古学、文献史学、建築史学の各分野を横断して実地検討をおこない、社殿の脇に湧水があり、また中世には寺院の坊が連なる状況も把握でき、湧水を起点とする神社が発展する姿が明らかとなった。
　②山林寺院などの霊場についての立地特性と景観上の特徴に対する検討では、①で扱った弥美神社の神宮寺があり、その近くの古代寺院である興道寺廃寺と周辺の寺院、高善庵遺跡も対象とした。この遺跡は興道寺廃寺に続く寺院とみられるが、平地の寺院が丘陵上に遷移していく典型例とすることができ、井戸をもつことも特徴として把握できた。さらに、昨年度より調査を実施している兵庫県神河町の「播磨犬寺」についても継続しておこない、その成果をまとめて年度末に報告書を作成した。同時に、類例を同じ播磨国内で探し、平地寺院が起点となり山寺が成立する過程を浮かび上がらせることができた。
　③聖地・霊場の立地特性に対する比較研究では、昨年度の補足として、キリシタンの霊地である大阪府茨木市の竜王山の周辺に点在する聖地霊場の踏査をおこなった。国内での比較材料として取り上げた京都市東山区の三嶋神社については、その研究成果を報告する研究会を実施し、その成果を報告書にまとめることができた。大内氏の妙見信仰や秀吉期の都市改造などを経て、聖地が変遷し再生していく状況を明らかにすることができた。
　東アジアでの比較では、中国の霊場についても集成を継続するとともに、朝鮮半島についての検討を開始した。朝鮮半島での事例を検討するため、慶州の仏国寺や石窟庵などを巡見し、いずれも水を得ることが立地上の重要な位置を占めており、日韓比較の可能性を確認した。

2020 年度
　①神社に代表される聖地の立地特性と景観上の特徴に対する検討では、山陰道諸国の式内社の情報を集め、その立地についての検討をおこなった。とくに丹後国については、大宮売神社のように古墳時代の祭祀遺跡を起点とする神社を取り上げ、神社の成立と祭祀遺跡の関係を中心に検討した。また、籠神社や竹野神社など他の式内社についても実地に検討をおこない、その立地上の特徴を明らかにし、真名井の名称で知られる水に対する信仰についても検討を深めた。
　②山林寺院などの霊場についての立地特性と景観上の特徴に対する検討についても、山陰道の諸寺について検討をおこなった。丹後や但馬のように国分寺が山寺の起点になっていることを確認し、とくに丹後国においては、成相寺が国分寺や国府周辺の寺院との関係性が導かれることを確認した。また、出雲において鰐淵寺があり、水場との関係など、実地に検討をおこない、近くの大寺薬師の周辺に想定される古代寺院との関係についても考察した。山林霊場の成立と平地の寺院の関係についての資料を加えることができた。
　③聖地・霊場の立地特性に対する比較研究では、丹後地域との比較の観点で、とくに出雲国内の神社について、考古学、文献史学、建築史学の各分野を横断して実地検討をおこない、湧水や水利の水源と神社の関係について、田和山遺跡、青木遺跡、御井神社などを巡見し、検討をおこなった。
　東アジアでの比較では、中国の霊場についても集成を継続し、文献に現れる水と関連する寺院の集成を精力的におこなった。朝鮮半島についても、前年度の成果を受けて、水との関係のある寺院遺跡の抽出に努めた。これらから、水を中心に仏教寺院の比較が日中韓で可能であることを確認した。

2021 年度
　昨年度まで 3 つのテーマ、①神社に代表される聖地の立地特性と景観上の特徴に対する検討、②山林寺院などの霊場についての立地特性と景観上の特徴に対する検討、③聖地・霊場の立地特性に対する比較研究、とりわけ東アジアでの比較検討の３つのテーマに分けて研究をおこなってきた。本年度はその総合をおこない、研究報告を作成した。
　成果のとりまとめとして、『聖地霊場の成立についての分野横断的研究』を『京都府立大学文化遺産叢書』(ISSN:1883-728X)の 25 集として作成した。研究代表者と分担者の論文は次の通りである。菱田哲郎「祭祀遺跡から神社へ―酒造りを鍵として―」、諫早直人「古墳出土馬具と仏教工芸―竹原市横大道１号墳出土馬具の紹介を兼ねて―」、吉川真司「片岡四寺考証―片岡王寺・西安寺・尼寺南北廃寺―」、向井佑介「泰山霊巌寺の成立過程」、井上直樹「新羅神宮神主考―新羅の聖地祭祀の基礎的考察―」、東昇「近世・近代における山城国岩屋山志明院の霊地形成と雲ヶ畑の氏神」、山岸常人「覚書　拝殿を本殿より先に建てる神社」、岸泰子「洛

陽三十三所観音霊場の成立・再興とその空間」、上杉和央「「群」としての四国八十八箇所霊場」である。このほか研究協力者８名の論考や京都府立大学文学部考古学研究室の丹後地域における霊場探索の調査報告、さらに科研による巡見の報告を掲載した。

なお、毎年実施して異なる分野の研究者が共同しておこなう巡見については、天草・島原地域を対象におこなった。当地は神仏に加えて潜伏キリシタンの信仰があり、宗教間の聖地の比較が可能である。現地では、聖地霊場の立地、水についての信仰など、他地域で見てきた視点に基づきながら、宗教の違いを超えた聖地の共通性について確認することができた。この巡見のプログラムの一部として、天草市の平田豊弘氏の発表を中心に研究会を実施し、聖地と世界遺産について検討を深めた。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計32件（うち査読付論文　3件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　1件）

１．著者名 竹内祥一朗・菱田哲郎	４．巻 8
２．論文標題 天草の巡検報告	５．発行年 2022年
３．雑誌名 京都府立大学文学部歴史学科フィールド調査集報	６．最初と最後の頁 78,79
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 菱田哲郎	４．巻 25
２．論文標題 祭祀遺跡から神社へ　―酒造りを鍵として―	５．発行年 2022年
３．雑誌名 京都府立大学文化遺産叢書	６．最初と最後の頁 9,24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 山岸常人	４．巻 25
２．論文標題 覚書　拝殿を本殿より先に建てる神社	５．発行年 2022年
３．雑誌名 京都府立大学文化遺産叢書	６．最初と最後の頁 262,255
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 吉川真司	４．巻 25
２．論文標題 片岡四寺考証―片岡王寺・西安寺・尼寺南北廃寺―	５．発行年 2022年
３．雑誌名 京都府立大学文化遺産叢書	６．最初と最後の頁 43,76
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 東昇	4．巻 25
2．論文標題 近世・近代における山城国岩屋山志明院の霊地形成と雲ヶ畑の氏神	5．発行年 2022年
3．雑誌名 京都府立大学文化遺産叢書	6．最初と最後の頁 286,263
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 向井佑介	4．巻 25
2．論文標題 泰山霊巌寺の成立過程	5．発行年 2022年
3．雑誌名 京都府立大学文化遺産叢書	6．最初と最後の頁 187,207
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 岸泰子	4．巻 25
2．論文標題 洛陽三十三所観音霊場の成立・再興とその空間	5．発行年 2022年
3．雑誌名 京都府立大学文化遺産叢書	6．最初と最後の頁 254,243
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 上杉和央	4．巻 25
2．論文標題 「群」としての四国八十八箇所霊場	5．発行年 2022年
3．雑誌名 京都府立大学文化遺産叢書	6．最初と最後の頁 242,232
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 井上直樹	4．巻 74
2．論文標題 稲葉君山の檀君神話認識―否定的評価と肯定的解釈の背後―	5．発行年 2021年
3．雑誌名 韓日関係史研究	6．最初と最後の頁 43,74
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 井上直樹	4．巻 25
2．論文標題 新羅神宮神主考―新羅の聖地祭祀の基礎的考察―	5．発行年 2022年
3．雑誌名 京都府立大学文化遺産叢書	6．最初と最後の頁 209,230
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 諫早直人	4．巻 25
2．論文標題 古墳出土馬具と仏教工芸―竹原市横大道1号墳出土馬具の紹介を兼ねて	5．発行年 2022年
3．雑誌名 京都府立大学文化遺産叢書	6．最初と最後の頁 25,42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 菱田哲郎	4．巻 18
2．論文標題 行基菩薩の考古学	5．発行年 2020年
3．雑誌名 グレートブッダ・シンポジウム論集	6．最初と最後の頁 57, 70
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 井上直樹	4．巻 72
2．論文標題 石窟庵と近代日本―曾禰荒助韓国統監・寺内正毅朝鮮総督を中心に―	5．発行年 2020年
3．雑誌名 京都府立大学学術報告	6．最初と最後の頁 113，133
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 諫早直人	4．巻 7
2．論文標題 竹原市横大道８号墳出土銅鋺の再検討	5．発行年 2021年
3．雑誌名 京都府立大学文学部歴史学科フィールド調査集報	6．最初と最後の頁 142，143
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 菱田哲郎	4．巻 別冊30
2．論文標題 考古学からみた6，7世紀の王権と地域社会	5．発行年 2019年
3．雑誌名 季刊考古学	6．最初と最後の頁 102-109
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 吉川真司	4．巻 18
2．論文標題 由義寺と由義宮	5．発行年 2019年
3．雑誌名 八尾市史文化財紀要	6．最初と最後の頁 27-63
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 吉川真司	4．巻 22
2．論文標題 古代交野郡再考	5．発行年 2020年
3．雑誌名 枚方市史年報	6．最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 向井佑介	4．巻 94
2．論文標題 北魏興安二年舎利石函の図像学	5．発行年 2019年
3．雑誌名 東方学報	6．最初と最後の頁 89-112
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 山岸常人・黒田龍二・登谷伸宏・岸泰子	4．巻 3
2．論文標題 史料編　棟札等釈文	5．発行年 2020年
3．雑誌名 丹波市の歴史的建造物	6．最初と最後の頁 6-67
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 上杉和央	4．巻 なし
2．論文標題 水を得るための挑戦	5．発行年 2020年
3．雑誌名 「間」からみる瀬戸内　瀬戸内のための素描	6．最初と最後の頁 162-164
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 菱田哲郎	4．巻 22
2．論文標題 地域の開発と後期古墳	5．発行年 2019年
3．雑誌名 島根県古代文化センター研究論集	6．最初と最後の頁 265，275
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 向井祐介	4．巻 なし
2．論文標題 和東の石造物	5．発行年 2019年
3．雑誌名 京都学研究会編『京都を学ぶ【南山城編】―文化資源を 発掘する―』	6．最初と最後の頁 138,141
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 上杉和央	4．巻 なし
2．論文標題 瓶原三十三所と瓶原八景	5．発行年 2019年
3．雑誌名 京都学研究会編『京都を学ぶ【南山城編】―文化資源を 発掘する―』	6．最初と最後の頁 160,161
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計25件（うち招待講演　17件／うち国際学会　8件）

1．発表者名 菱田哲郎
2．発表標題 美濃国分寺跡からみた国分寺建立の意義
3．学会等名 美濃国分寺跡国史跡指定100周年記念講演会（招待講演）
4．発表年 2021年

１．発表者名 菱田哲郎
２．発表標題 古代寺院とふじいでら
３．学会等名 藤井寺市第35回市民文化財講座（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 吉川真司
２．発表標題 天平の疫病大流行と聖徳太子信仰
３．学会等名 王寺町歴史リレー講座（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 吉川真司
２．発表標題 Before Written Oath（起請文以前）
３．学会等名 Wein Oath Workshop（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 吉川真司
２．発表標題 長岡・平安遷都と古代寺院
３．学会等名 向日市市民考古学講座（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 井上直樹
２．発表標題 新羅中代の宗廟と寺院―恵恭王王代の宗廟改編と奉恩寺―
３．学会等名 韓国慶北大学校人文大学　人文国際学術大会（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 菱田哲郎
２．発表標題 古代の多可郡　～西脇市域を中心に～
３．学会等名 令和2年度西脇郷土資料館夏季特別展特別講演会（招待講演）
４．発表年 2020年

１．発表者名 菱田哲郎
２．発表標題 聖水・浄水と古代の山林寺院
３．学会等名 国立慶州博物館新羅学国際シンポジウム（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 菱田哲郎
２．発表標題 飛鳥時代の墓制と国際関係
３．学会等名 国際シンポジウム「日本と東アジア―歴史の発展と文化の交流― 」（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 菱田哲郎
２．発表標題 明石の古代
３．学会等名 令和元年度 特別展『発掘された明石の至宝』　講演会（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 菱田哲郎
２．発表標題 行基菩薩の考古学
３．学会等名 第17回ザ・グレートブッダ・シンポジウム（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 吉川真司
２．発表標題 平城京東山の宗教的環境
３．学会等名 国立慶州博物館新羅学国際シンポジウム（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 吉川真司
２．発表標題 古代寺院の楽舞と琴歌
３．学会等名 国際シンポジウム「日本と東アジア―歴史の発展と文化の交流― 」（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 上杉和央
２．発表標題 地域の文化財としての景観
３．学会等名 シンポジウム「これからの地域の文化財の保存・活用」
４．発表年 2019年

１．発表者名 井上直樹
２．発表標題 5世紀後半の百済の王権構造―王号・侯号・太守号と将軍号
３．学会等名 近世史フォーラム2019年6月例会
４．発表年 2019年

１．発表者名 菱田哲郎
２．発表標題 地域開発と後期古墳
３．学会等名 企画展「古代出雲誕生」関連講座（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 菱田哲郎
２．発表標題 考古学からみた６、７世紀の王権と地域社会
３．学会等名 日本考古学協会2018年度静岡大会（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 菱田哲郎
２．発表標題 考古学からみた高句麗と倭 ―京都府下を中心に―
３．学会等名 平成30年度国際京都学シンポジウム（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 菱田哲郎
２．発表標題 供養碑から墓碑へ―丹後における板碑の調査から
３．学会等名 第25回京都府埋蔵文化財研究会
４．発表年 2018年

１．発表者名 菱田哲郎
２．発表標題 古代寺院が語る飛鳥時代の文明開化
３．学会等名 長野教育文化振興会　講演会（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 岸泰子
２．発表標題 寺町の形成と近世都市京都
３．学会等名 第20回洛北史学会定例大会（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 井上直樹
２．発表標題 新羅下代・景文王の宗廟祭祀と崇福寺
３．学会等名 九州史学会　朝鮮学部会（招待講演）
４．発表年 2018年

〔図書〕　計17件

１．著者名 菱田哲郎	４．発行年 2022年
２．出版社 京都府立大学文学部歴史学科	５．総ページ数 324
３．書名 聖地霊場についての分野横断的研究	

１．著者名 山岸常人・岸泰子・登谷伸宏	４．発行年 2021年
２．出版社 勉誠出版	５．総ページ数 36
３．書名 古建築調査ハンドブック	

１．著者名 山岸常人・岸泰子・登谷伸宏	４．発行年 2021年
２．出版社 和多山西仙寺	５．総ページ数 110
３．書名 西仙寺本堂建造物調査報告書	

１．著者名 山岸 常人	４．発行年 2021年
２．出版社 法藏館	５．総ページ数 430
３．書名 仏神と建築	

１．著者名 東昇・竹中友里代編	４．発行年 2021年
２．出版社 京都府立大学文学部歴史学科	５．総ページ数 142
３．書名 京都山伏山町文書調査報告	

１．著者名 菱田哲郎・諫早直人ほか	４．発行年 2020年
２．出版社 神河町教育院会	５．総ページ数 80
３．書名 堂屋敷廃寺発掘調査報告書Ⅰ	

１．著者名 菱田哲郎・諫早直人ほか	４．発行年 2020年
２．出版社 神河町教育委員会	５．総ページ数 58
３．書名 堂屋敷廃寺発掘調査報告書Ⅱ	

1．著者名 東昇・水谷友紀	4．発行年 2019年
2．出版社 京都府立大学文学部歴史学科	5．総ページ数 164
3．書名 京都東山・三嶋神社文書調査報告	

1．著者名 向井 佑介	4．発行年 2020年
2．出版社 臨川書店	5．総ページ数 316
3．書名 中国初期仏塔の研究	

1．著者名 菱田哲郎ほか	4．発行年 2019年
2．出版社 京都府立大学文学部考古学研究室	5．総ページ数 50
3．書名 竜王山・忍頂寺の調査Ⅰ	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

6．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	山岸　常人 (Yamagishi Tsuneto) (00142018)	京都府立大学・文学部・特任教授 (24302)	
研究分担者	吉川　真司 (Yoshikawa Shinji) (00212308)	京都大学・文学研究科・教授 (14301)	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	東　昇 (Higashi Noboru) (00416562)	京都府立大学・文学部・教授 (24302)	
研究分担者	向井　佑介 (Mukai Yusuke) (50452298)	京都大学・人文科学研究所・准教授 (14301)	
研究分担者	岸　泰子 (Yasuko Kishi) (60378817)	京都府立大学・文学部・准教授 (24302)	
研究分担者	上杉　和央 (Uesugi Kazuhiro) (70379030)	京都府立大学・文学部・准教授 (24302)	
研究分担者	井上　直樹 (Inoue Naoki) (80381929)	京都府立大学・文学部・准教授 (24302)	
研究分担者	諫早　直人 (Isahaya Naoto) (80599423)	京都府立大学・文学部・准教授 (24302)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関